

A new locality of *Alisma canaliculatum* var. *azuminoense* in Kiso district, Nagano Prefecture and the status in some localities-known

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00053371

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



大塚孝¹・尾関雅章¹・八木 隆²・千葉悟志³：アズミノヘラオモダカの長野県木曾町における新産地と既知産地の現状

Koichi Otsuka¹, Masaaki Ozeki¹, Takashi Yagi² and Satoshi Chiba³ : A new locality of *Alisma canaliculatum* var. *azuminoense* in Kiso district, Nagano Prefecture and the status in some localities-known

2007年7月、筆者の一人、八木 隆が長野県木曾郡木曾町の休耕田で自生するアズミノヘラオモダカ *Alisma canaliculatum* A. Braun et C. D. Bouché ex Sam. var. *azuminoense* Kadono et Hamashima を発見した。連絡を受けた大塚、尾関が同年10月4日に現地を確認した。新産地と思われるので、植生調査結果等を含め報告する。また、既知産地についても、同年11月2日に大塚、尾関、千葉が個体数調査等の現状把握を行ったので合わせて報告する。

アズミノヘラオモダカは1984年8月、長野県南安曇郡穂高町（現安曇野市）の水田で発見され、基準変種のヘラオモダカ *Alisma canaliculatum* var. *canaliculatum* に比べて、花茎は短く葉より上に伸びず、また、花柄が短く花序が密集することを特徴として変種記載された（角野・浜島1988）。旧穂高町のほか、今までに知られたその他の産地は、安曇野市（旧三郷村、旧豊科町）、松本市、茅野市のみで長野県固有の植物であり、「長野県版レッドデータブック 維管束植物編」（長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課2002）で長野県絶滅危惧ⅠA類、また「環境省版レッドデータブック」（環境庁自然保護局野生生物課2000）で絶滅危惧ⅠA類に分類されている。なお、最近の環境省版レッドリスト（環境省2007）（<http://www.env.go.jp/press/index.php>）では絶滅危惧ⅠB類にランクされている。

木曾町における生育の状況：生育を確認した場所は、木曾町（旧木曾福島町）の休耕田（面積約400m²、Fig.1A）で、この休耕田の全面に叢生した株状の開花個体（Fig.1B）173株を確認した。また、他に未開花の小さな個体も多数生えていた。アズミノヘラオモダカは叢生して大きな株になるようで、ある一株を分けると5つになるものがあつた。この種類は形質的に安定しており、種子繁殖も旺盛である。

標本：長野県木曾郡木曾町黒川（大塚孝一・尾関雅章，2007.10.4，NAC145786）。

植生調査：休耕田の中に、1m×1mの調査枠を3個設け植生調査を行った。被度・群度はBraun-Blanquetによる植物社会学的手法（鈴木他1985）によつた。その結果をTable1に示す。自生地での植生は、長野県内で確認されている水田雑草群落のウリカワーコナギ群集の組成（宮脇1979）と類似しており、またオモダカ *Sagittaria trifolia* L. の出現頻度及び被度が高いことからこの自生地は湛水状態が続く立地と考えられる。

既知産地における生育の状況：大塚、尾関、千葉の2007年11月2日に行った既知産地の現状把握調査の結果（Table2）を示す。松本市においては耕作田と休耕田各1ヶ所から知られていたが、アズミノヘラオモダカは今回休耕田のみに生育していて、叢生し株状となった開花個体46株を確認した。ここでは、特定外来生物のオオカワヂシャ *Veronica anagallis-aquatica* L. の生育が確認され、今後、水田を被うことが予想されるため、アズミノヘラオモダカを保全するにはオオカワヂシャの除去が必要と思われる。旧豊科町では、水田が完全に放棄され生育に適さない環境となつていた。旧三郷村については、かつて生育していた水田では確

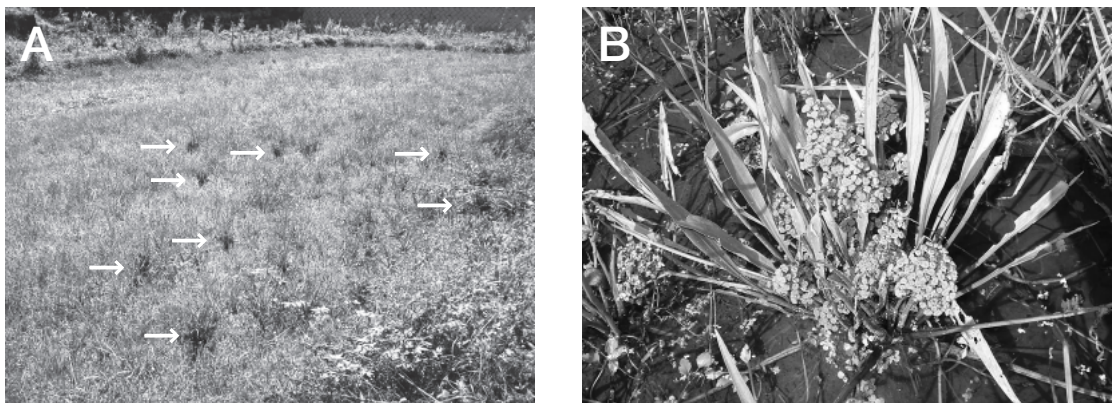


Fig. 1. *Alisma canaliculatum* var. *azuminoense* (Kiso Town, Nagano Pref., Oct. 2007). A: Habitat (Arrows indicate *A. canaliculatum* var. *azuminoense*). B: Flowering individual.

Table 1. Species composition of *Alisma canaliculatum* var. *azuminoense* community

No.	1	2	3	
Size (m × m)	1×1	1×1	1×1	
Height of herb layer (m)	0.4	0.5	0.5	
Coverage of herb layer (%)	75	50	95	
Number of species	14	9	16	
<i>Alisma canaliculatum</i> var. <i>azuminoense</i>	2・2	1・1	3・3	アズミノヘラオモダカ
<i>Sagittaria trifolia</i>	2・2	3・3	2・2	オモダカ
<i>Lindernia procumbens</i>	+・2	+	1・2	アゼナ
<i>Schoenoplectus juncooides</i>	1・1	+	+・2	イヌホタルイ
<i>Oenanthe javanica</i>	+	1・1	2・2	セリ
<i>Spirodela polyrhiza</i>	+・2	+・2	+・2	ウキクサ
<i>Eleocharis acicularis</i> var. <i>longiseta</i>	+	+	+・2	マツバイ
<i>Monochoria vaginalis</i>	3・3	・	1・2	コナギ
<i>Cyperus difformis</i>	+・2	・	1・2	タマガヤツリ
<i>Echinochloa crus-galli</i> var. <i>crus-galli</i>	1・1	・	1・1	イヌビエ
<i>Rotala indica</i> var. <i>uliginosa</i>	1・2	・	+	キカシグサ
<i>Hypericum laxum</i>	+	・	+	コケオトギリ
<i>Murdannia keisak</i>	・	・	2・2	イボクサ
<i>Oryza sativa</i>	・	・	1・2	イネ
<i>Lemna aoukikusa</i>	・	・	+・2	アオウキクサ
<i>Eriocaulon</i> sp.	+	・	・	ホシクサ sp.
<i>Juncus prismatocarpus</i> subsp. <i>leschenaultii</i>	+	+	・	コウガイゼキショウ
<i>Alisma canaliculatum</i> var. <i>canaliculatum</i>	・	+	・	ヘラオモダカ
<i>Ludwigia epilobioides</i>	・	・	+	チョウジタデ

Table 2. Number and habitat of *Alisma canaliculatum* var. *azuminoense* in Nov. 2007

Locality	Number*	Habitat	Area (m ²)	Habitat change
Matsumoto City	46	Whole of fallow field	200	
Azumino City (former Toyoshina Town)	0	—	—	Abandonment of cultivation
Azumino City (former Misato Village)	31	Whole of paddy	1000	

*: Number of flowering individuals.

認できなかつたが、隣接する水田で叢生し株状となった開花個体 31 株を確認した。この水田では、コナギ *Monochoria vaginalis* (Burm. f.) Presl var. *plantaginea* (Roxb.) Solms やホソバヒメミソハギ *Ammannia coccinea* Rottb. などがアズミノヘラオモダカとともに多く見られた。

確認した既知産地の標本：松本市島内 SHIN 52089, 豊科町 SHIN 154275・154276。「長野県版レッドデータブック 維管束植物編」に掲載された茅野市の産地のもとになったと思われる「茅野市 SHIN 52018」の標本を検討した結果、花の密集がとぼしく、花茎が明らかに葉より上に伸びていることからヘラオモダカと同定された。このため、現在アズミノヘラオモダカが分布するのは、安曇野市、松本市、木曾町となる。旧穂高町の基準産地については現状不明である。

今回、木曾町で多数生育することが判明したが、アズミノヘラオモダカは、いずれの生育地でも環境の変化や水田の管理状況によっては消失する可能性があり、種子の保存や栽培など生育域外での保全策を今後講ずる必要がある。

引用文献

- 角野康郎・浜島繁隆. 1988. ヘラオモダカの新変種アズミノヘラオモダカ. 植物研究雑誌 **63**: 411-412.
環境庁自然保護局野生生物課 (編). 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブック 8

- 植物 I (維管束植物). 660 pp., 16 pls. 自然環境研究センター, 東京.
- 宮脇 昭 (編). 1979. 長野県の現存植生. 411 pp. 長野県, 長野.
- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課 (編). 2002. 長野県版レッドデータブック 維管束植物編. 297 pp., 24 pls. 長野県, 長野.
- 鈴木兵二・伊藤秀三・豊原源太郎. 1985. 植生調査法 II. 189 pp. 共立出版, 東京.
- (¹〒381-0075 長野市北郷 2054-120 長野県環境保全研究所&ハーバリウム NAC; ²〒532-0013 大阪市淀川区木川西 4-3-4; ³〒398-0002 大町市大町 8056-1 市立大町山岳博物館 ¹Nagano Environmental Conservation Research Institute & Herbarium NAC, 2054-120 Kitago, Nagano 381-0075, Japan; ²4-3-4 Kigawa-nishi, Yodogawa-ku, Osaka 532-0013, Japan; ³Omachi Alpine Museum, 8056-1 Omachi, Omachi 398-0002, Japan)